
風吹きのまちで

よへい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風吹きのまちで

【Nコード】

N7697E

【作者名】

よへい

【あらすじ】

幼馴染の大地と裕輔が、高校生活を送っていく中で起こる色々な出来事は、大人への成長、青春の思い出、一生の宝物……言葉にはかえることのできないほどの大切なものになることでしょう……。そんな大地と裕輔とその周り巻き込む大青春小説！！

1 - 大地と裕輔（前書き）

ちよつと子供っぽくて、楽観的な「大地」。それと反対に大人っぽくて、ちよつと何を考えているかわからない感がある「裕輔」。その周りを巻き込んだりやって楽しい高校生活をおくっていつちやうぜ！と、いう「なんとなくせいしゅん」みたいなかんじで。

1 - 大地と裕輔

やわらかい風が寝転がっているボクの肌をなでるように抜けていく。この気持ちいい感じがボク、柏大地かしわだいちは大好きだ。というよりこの柔らかな風が吹くこの大空町が大好きだ。しかも大地と大空なんて、とても運命的にかんじないかい？ いや〜感じるよね〜。

「大地、気味悪いぞ…」

「えっ、なんだ裕輔か。聞こえてた？」

「うん、しつかりとね。」

「まあいいよ〜。」

「大地つて、ホントそうゆうとこ気にしないよな。」

「まあね〜」

さつきから、会話をしているこの少年はボクの幼馴染、木場裕輔きは ゆうすけ。かれこれ幼稚園からの付き合いで、運動が得意で勉強もそこそこ、顔も海に近いこの町に住んでいるからなのかサーファーのように良い感じに日焼けし整っているから、結構女子からはモテる。

そんな裕輔とボクは、性格とかは別として他の人から見るとそっくりらしい。「後姿なんてみても、まったくわからないから！」と、ある女子に言われてボク達2人はその時から、そっくりだということとを認識し始めた。

「そういえば、明日入学式だね〜。」

裕輔がふと言った。

「そうだね〜。でも裕輔とボクはずっと一緒に、また一緒にだからあ

んまり変わらんね。」

「まあ、離れても良かったんだけどな。」

裕輔がそんなこというからボクも、

「そんなこと言うなや！」と、ちょっとむきになって「ううってみる。すると裕輔は、

「冗談よ。一緒にほうが楽しいしな！」

いつものように、こんな会話をする。

「明日、一緒にガッコ行こっか。」

「いいぞ。8時に大地の家で間に合うよな？」

「うん、うちから学校歩いて5分で着くからね。」

「なら余裕だな。」

そう、ボクの家からこれから通う高校はとても近いのだ。「まあ、成績もそこそこだしそこでいっか！」と迷わず自分と裕輔で決めたのだ。ちなみに言うところと裕輔と家はというと時間で言うと20秒、距離で言うと30mほどのきりである。ちかいだろう？

「そろそろ、帰ろうか。」

「そうだな。明日は入学式だし早く帰ろうか。」

寝転がっていた体を2人は起こし、同じく伸びをし、立ち上がった。

「じゃ、かえろか。」

「おう。」

2人はこうして、同じ方向に帰っていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7697e/>

風吹きのまちで

2011年1月13日05時39分発行